

# 八社参り②

## 八日市場を歩く

八重垣神社をはじめ市の中心部にまつられる八つの神社をお参りする「八社参り」短路コース。前回の横町区「北面道祖神」、下出羽区「村山稲荷神社」、仲町区「八幡大神」に続き、今回は砂原区の「猿田彦神社」からお参りを始めました。

今でも「砂原の庚申様」と呼ばれるように、砂原コミュニティセンター敷地内に庚申塔がまつられています。この塔は、庚申年に当たる1680（延宝8）年6月3日「八日

市場経中間」により造立されました。「経中間」とは信者の集まりである庚申講のことで、八日市場村全体で建てたことが特徴と言えます。市内でも多くの庚申塔が見られますが、延宝8年が年代的に最も古いものです。江戸時代の八日市場村はこの頃から町内ごとの動きが始まりました。明治時代になり庚申様は猿田彦神社と名を改めますが、猿田彦の神が庚申信仰と結びつくことによるとされています。

砂原という町名が使われだ

向かう道路に面して庚申塚があります。1972（昭和47）年に周辺の庚申塔をまとめ塚を築いたもので、造立年や造立者などは分かりませんが、少人数の庚申講や個人がまつりました。

次にお参りしたのが八重垣神社です。1711（正徳元）年に建てられた石の鳥居をくぐると、社務所に面した左側に「市神社」がまつられています。由緒は分かりませんが、「八日市場」の市と何らかの関わりがあるのかも知れません。

八重垣神社の本殿北側にまつられるのが「三峯神社」です。本社は埼玉県秩父市に鎮座し、三峯講という信者の集団が全国に広まっているとされ、市内にもいくつかの三峯講があります。

この石宮は町村合併で誕生した福岡町（八日市場町の前町の町名）の「町内安全」を願って、1889（明治22）年5月にまつられたことが裏面に刻まれています。

八社参りは続きます。

（市文化財審議会委員・

依知川雅一）

問 秘書課 広報広聴班

☎ 73・0080



砂原区の猿田彦神社にまつられる庚申塔

したのは1700年代に入ってからとみられ、仲町は明治以前は「中新田」と呼ばれていたことが石造物などから知られます。仲町から市民病院へ